

女子校と男女共学校の問題について

〇〇学部〇〇学科〇年

学籍番号〇〇〇

〇〇〇〇

読書レポートを書くにあたって、中学・高校と女子校に通い、現在は現代女性にライフスタイルについて執筆活動を行っている杉浦由美子の『女子校力』を読んだ。杉浦が78人の女子校出身者を取材し、それをもとに、女子校出身者の特徴や彼女らの体験談などについて書いた本である。私は男女共学校で育ったため、女子校のことは全くわからない。しかし、女子校および男女共学校のそれぞれの特徴から考えて、長い学校生活において、男女共学校と女子校のどちらに通うのがよいのだろうか。以下では、これについて考察する。

まず、女子校の利点と欠点を挙げる。利点は、①自分の意見をはっきり言える (p.59)、②周りを気にせず好きなことができる (p.90, p.195)、③違うタイプの生徒同士が互いに認め合い、互いに干渉しない (p.5)、④スクールカーストがほぼない (p.50, p.79-80)、などである。欠点は、①世間がない、②男のメンツが読めない (p.181)、③空気が読めない (p.175-176)、などである。

次に、男女共学校の利点と欠点を挙げる。利点は、①周りの動きを見て行動することができる (p.169-174)、②さまざまな考え方の人がいるため人間的に成長できる (p.60-61)、③周りに気を使うので、モラルが生まれる、④男女の違いを理解して行動できるようになる (p.113-114)、などである。欠点は、①自分の意見をはっきり言えない (p.194)、②スクールカーストがある場合が多い (p.60-63)、③空気を読みすぎて仕事をさぼることがある (p.170-171)、などである。

比べてみるとわかるが、女子校の利点と男女共学校の欠点、それから女子校の欠点と男女共学校の利点がほぼ対になっている。どちらか一方だけ通うとなると、欠点は残ってしまう。しかし、どちらにも通うことで、女子校の欠点と男女共学校の欠点をほぼ補うことができる。つまり、女子校にも男女共学校にも通うことを経験するのが一番よいのだ。単純に言えば、学校を卒業した後いろいろな世代の人や価値観の違う人といっしょに仕事をすることを考えると、自分の意見をはっきり言う力も、周りの空気を読む力も必要なのである。

参考文献

杉浦由美子『女子校力』PHP新書、2013年

コメント [u1]: 内容にふさわしい表題をつけます。本文より少し大き目の太字にするのがよいでしょう。例えばここでは、本文が10.5ポイント、表題が14ポイントです。

コメント [u2]: ここには、レポート作成者の所属、学籍番号、氏名などの情報を書きます。

コメント [u3]: 段落の最初は、一字分下げます。

コメント [u4]: 参照注の書き方については、「④出典表示など」の項を見てください。普通は、著者名や書名、出版年などの情報を、本文中の括弧内や脚注などに提示しますが、このレポートの参考文献は一冊のみなので、ページ数だけで十分です。

コメント [u5]: 最後に参考文献表を添えます。